

横浜市小学校社会科研究会 中学年部会 研修会記録	令和2年 12月2日 横浜市小学校教育研究会 会長 相澤 昭宏 横浜市小学校社会科研究会 会長 梅田 比奈子 同 学年部長 岡村 新一郎
	第3号

【提案日時】 10月 7日 (水)	講師 小竹 護 先生 (横浜市立希望ヶ丘小学校)
【会 場】 横浜市立丸山台小学校	提案 細水 大輝 先生 (横浜市立稻荷台小学校)
	提案 酒井 貴紀 先生 (横浜市立稻荷台小学校)
司会 研究推進部 記録 学年運営部	

提案内容① 細水先生 3年生

单元名 「横浜市の様子のうつりかわり ～まちを走っていた市電をおって～」

- これまで「鳥瞰図」を中心に研究を進めてきた。土地利用の様子が分かりやすいというメリットもあるが、人のくらしの様子が出にくいとも感じていた。

↓

「市電」を取り上げることで、交通や人のくらし(着ているものや生活など)の視点から、横浜市のうつりかわりの様子について考えられるようにした。

- 変化の大きな時代を取り上げ、子どもが比較しやすいようにした。
 ①市電の無かったころ ②市電の走っていたころ (S30年) ③現在

↓

<单元を見通す学習問題>

市電がなかった頃と、市電が走っていた頃と、今では、横浜市はどう変わってきたのだろう。

- 市電が走っていた頃のくらしについて調べるために、地域のYさんの話を聞く活動を設定した。

市電は、まちの人たちにも愛されるものだったんだ。

それなのになんで市電はなくなってしまったのかな。

⇒<本気の学習問題> 「たくさんの人が使っていたのに、なぜ市電はなくなったのかな」
 追求のねらいとして、人口の増加や交通手段の変化などを設定した。

- 単元の終末で、横浜市がこれからどうなっていくのかを考えられるようにしていきたい。

質疑応答

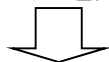
Q 市電を取り上げることで、子どもの導入での反応の変化はあったか。

A まず鳥瞰図を見せて、人が見たいとなったので市電の写真を見せた。どっちが昔？と比べることで、服装や土地の様子の変化に気付くことができた。

提案内容② 酒井先生 4年生

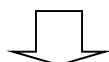
単元名 「水不足に苦しむ横浜の人々を救え ～日本初の近代水道、パーマーの挑戦～」

- 例年であれば野毛山のパーマーの水道を導入に活用していたが、今年ではできなかった。



旭区から続く水道の看板の写真から横浜の水道との関係性に迫っていった。

- 開港前と開港後の比較を通して「水はどうしていたのかな」という疑問をもった。事前に水の学習でダムを取り上げていたことでつながりをもてたのではないかと感じた。
- 資料として、H.S.パーマーの写真や水売りの絵など横浜の水道にかかわるものを用意した。
→子どもが自分で調べられる手立てがあるとよいが、パーマーの情報は集めにくいので、子どもが調べる根拠として、準備を進めた。



<本気の学習問題>

どうしてパーマーは相模川から水を通そうとしたのだろうか。

- 高さや水質などの土地利用の様子から、計画的に選定したことに気付けるようにした。

提案全体への質疑応答

Q 社会科の授業づくりに対する校内での取組は、どのように行われてきたのか。

A 社会科以外を専門とする先生方もいる中で、問いや授業のデザイン、板書などについて、級外の先生も一緒になってそれぞれの立場から研究を深めてきた。

A 社会科の研究を深めることで、子どもの発言の成長を他の教科でも感じる事ができた。

Q 「イカ図」をどのようにして活用してきたのか。

A 課題としては、子どもの視点が9つにおさまるのかということが出てきている。

成果としては、資料の視点が明確になるので、子どもが思考する時間の確保につながる。

指導講評 小竹先生

- 3年生の提案内容は、市電を取り上げることで人々のくらしの変化にも目が向く素晴らしい提案だった。便利のものだったのにどうしてなくなってしまったのかということについて、市電を利用して身近な人に聞くのもよかった。
- 4年生の提案内容は、子どもにとって水道がだんだん身近になっていく単元のように感じた。
- 「子どもの発言がすごい」と思える教師の感性を大切にしながら、資料や展開、場などについて「自分だったら…」と考えることで、さらに研究が深まっていく。

文責 関口 暁之 (永谷小学校)

小沢 暢志 (獅子ヶ谷小学校)